

# 2011春闘要求・9000円以上を勝ち取ろう！

自治労全国一般評議会 2011 春闘討論集会が 12 月 12 日から 13 日にかけて東京の主婦会館プラザエフで開催された。鹿児島から樋口副委員長、階元書記長、精野書記長、白ヶ澤執行委員、吉岡（南日本総合サービス分会副分会長）が参加した。集会では先ず、大浦評議会議長が主催者を代表して挨拶をされた。挨拶のなかで自治労本部・軍司副委員長に



集会で発言する階元書記長

「3 県問題」についてご苦勞をかけていることにお礼を述べられた。しかし、2008 年 12 月 26 日に 3 県独自の協定書を結んでから 2 年が経過しているが本来の意味での完全統合の時限設定の 12 月末日まで残りも少なくなつたいまも解決していないことに懸念を抱いていることも伝えた。自治労本部・軍司副委員長は挨拶の中で全国一般の日ごろの活躍に敬意を表するとともに春闘について見習うべき点が多く手法を学んでいきたいとし、3 県問題については「残

された時間は少ないが完全統合に向けて最大限努力していく」と述べるにとどまった。引き続き亀崎事務局長が 2011 春闘方針草案を提起した。方針では中小にはなかなか経済の回復が見えないまでも 2009 年春頃から着実に回復の速度がやや減速するとみられていることに触れ 2011 年春闘アンケートでは半数以上が「1 年前と比べて苦しくなった」ことを挙げて厳しい現状が続いているとして、平均賃上げ 9,000 円以上をベースに各地でたたかひの目標を設定することが提案された。

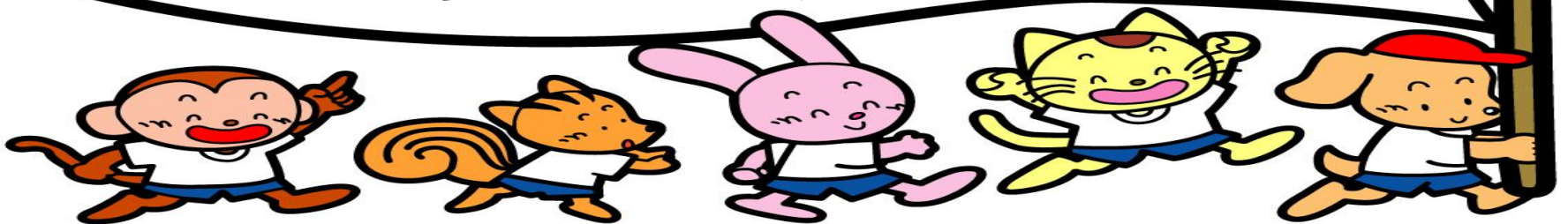
鹿児島からは階元書記長より 2010 年末一時金が終結したこと、鹿児島で退職者会の立ち上げの準備があり各地方労組に資料の提供を求める発言をした。

二日目は公共民間評議会・宮島議長より取り組みの報告があった。また東洋経済新報社・風間記者からは「溶融連鎖」と題して、日本の社会システムがどこまで崩れるのか記者の目を通して感じたことや最近の社会は「派遣村」を忘れつつあるが何ら変わっていないことなどを 1 時間余りにわたって熱く訴えた。また、職場からの報告として栃木地方労組の「普恵園闘争」、長崎地方労組の「光仁会闘争」について闘争が終了したことと全国の支援を頂いたことに感謝の意が述べられた。石川地方労組の「門前サンケン工場閉鎖撤回闘争」については経過とまだ闘争が続いていることに対してこれからも物心両方からの支援についてお願いがされた。

自治労全国一般  
鹿児島地方労働組合  
情報 一三二一号 二〇一〇年十二月十七日

## 「2011統一自治体選挙・春闘勝利」新春旗開き開催のお知らせ！

旗開き 2011年1月15日（土）学習会 16時から  
旗開きは18時00分から場所はアーバンポートホテル  
なるべく多くの参加をお願いします。 マッテマス！



二〇一〇年末一時金は全て終了する。

鹿児島地方労組の年末一時金は十二月初旬で全て終了した。今年は大浦新委員長と階元新書記長にとって心も新たに各企業と交渉を積極的に進めていった。結果として昨年比で下回ったところもなかった。特筆すべきは市交通局嘱託職員分会で十一月十二日に年末一時金支給について当局より提示が行われた。当局の提示を受け執行委員会を開催し分会執行部提示内容の報告を行った。当局の提示内容としては十二月期一時金支給として今回はじめて十万円支給の提示内容となっている。一時金支給に関しては、十二月議会での予算通過後に支給となる予定。このことは全国一般春闘討論集会で書記長から報告されている。

### 待ったなしの「三県問題」！

二〇一〇春闘討論集会に引き続き開催された全国一般第十二回臨時地方労組代表者会議では「三県問題」について各県から三十人あまりの意見が出された。各県とも統一していることは「産別組織統合協定書」（二〇〇五年九月二十日締結）に基づき、粛々と日程を進めていくことが大事であり、期限である今年の十二月末日をもってそのことを履行できないということがないよう自治労本部が指導制を持って三県とぎりぎりの交渉をすべきであるとした。最後に全国一般石川・福井・岐阜の三地方労の自治労との完全統合を求める決議文を全体の拍手で採択した。

発行・自治労全国一般鹿児島地方労働組合

連絡先・郵便番号 890-0064 鹿児島市鴨池新町5-7-202

TEL 099-258-3045

FAX 099-258-9206（留守番電話は委員長に転送されます）

Eメール u-kagoshima@theia.ocn.ne.jp